

人手不足解消に一役

公益社団法人 鹿児島市シルバー人材センターの取り組み

- ・少子高齢化と人口減少が進み、団塊の世代が退職期を迎えていることなどから生産年齢人口が減少し、県内企業では人手不足感が強まっている。国においては「一億総活躍社会」を掲げ、女性の活躍とともにシニア世代の活躍も期待されている。
- ・こうした中、人手不足に悩む企業への派遣や子育て・生活支援サービス等で契約件数を増やし、会員数も増加している鹿児島市シルバー人材センターの取り組みについて紹介する。

会員数・契約件数ともに増加

鹿児島市シルバー人材センターは1981年10月に設立された公益社団法人である。同センターでは、高齢退職者の経験や能力を生かすことができる短期的な就業や軽易な業務を、公共機関や民間企業、一般家庭等から受注し、会員登録している60歳以上の高齢者に提供している。

2004年以降の会員数の推移をみると、全国のシルバー人材センター会員数は09年をピークに減少傾向にあり、本県全体^注の会員数も05年以降減少している（図表1）。これに対し鹿児島市シルバー人材センターは2,300～2,400人前後で推移してきた後、15年度は2,601人と前年度よりも221人増加した（図表2）。16年5月末時点では2,809人とさらに会員数を伸ばしている。

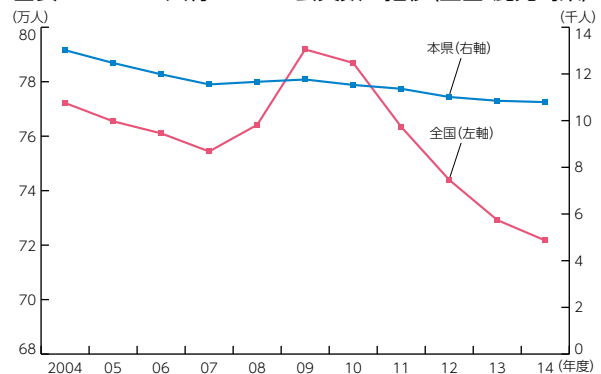
次に、受注件数の推移をみると、本県全体では減少傾向にある中、鹿児島市シルバー人材センターは増加傾向にある（図表3）。また、鹿児島市シルバー人材センターの15年度の契約金額は9億4,300万円と14年度に比べ4.5%増加した（図表4）。

注)県内にある34のシルバー人材センターの合計

企業の人手不足を補完

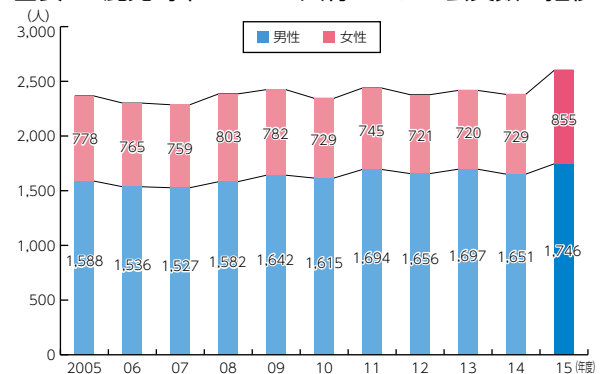
受付件数が増加していることについて、鹿児島市シルバー人材センターの藤山幸一理事長は、①人手不足の企業への派遣②高齢者世帯支援③子育て世帯支援等のニーズが高まっ

図表1 シルバー人材センター会員数の推移(全国・鹿児島県)



注)本県の会員数は県内にある34のシルバー人材センターの合計
資料)全国シルバー人材センター事業協会、図表2も同じ

図表2 鹿児島市シルバー人材センター会員数の推移



資料)2015年度は鹿児島市シルバー人材センター事業実績
図表3、4も同じ

ていることを要因として挙げる。

本県の6月の有効求人倍率は1.00倍。1963年以降過去2番目に高い水準にあり、小売業・飲食業をはじめ多くの企業で人手不足感が高まっている。

こうした中、スーパーのレジ・総菜担当や飲食店での調理補助等への派遣ニーズが高まっている。繁忙期やパートやアルバイト等の人手が確保できない時間帯などにシルバー人材センターからの派遣を活用する企業が増えており、2015年度は市内180社に派遣した(図表5)。

有資格人材を活用

団塊の世代が退職期を迎え、中小企業を支えてきた資格を有する熟練の技術者が減少していることが企業の課題となっている。

センターには宅地建物取引士や1級建築士、学校教諭や保育士等さまざまな資格を持つ会員が数多く登録されている(図表6)。「高齢者の経験や技能といった財産を生かして、地域を支える立場になってもらいたい」と藤山理事長は話す。

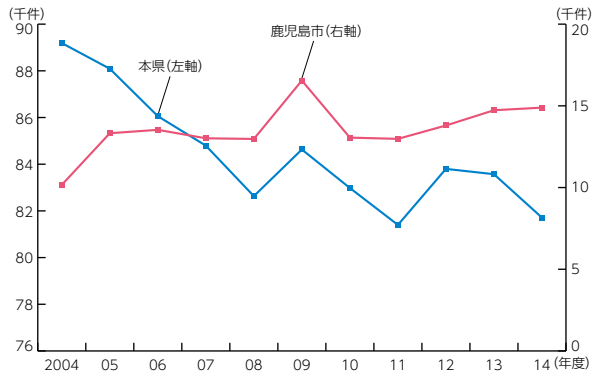
高齢者世帯を支えるワンコインサービス

高齢者世帯を支援する「ワンコインまごころサービス」の利用も増加している。

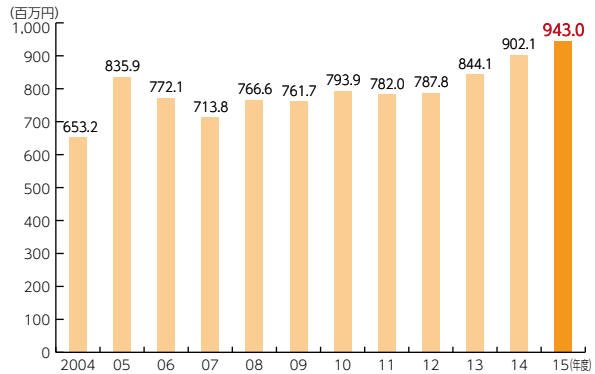
ひとり住まいの高齢者世帯等に対して、朝のごみ出しや電球の交換、日用品の買い物、台風前の戸締り等簡単な作業を10分以内100円(あるいは30分以内500円)で提供している。15年度の同サービスの受託実績は818件5,681回に上った。

足腰が不自由等の理由で外出がままならない高齢者も多く、地域コミュニティーが希薄になっている現代社会において、ニーズが高まっているようだ。

図表3 受注件数の推移(本県・鹿児島市)



図表4 鹿児島市シルバー人材センター契約金額の推移



図表5 シルバー人材センターから企業への派遣例

- スーパー(商品陳列・食品加工・レジ他)
- 調理補助(飲食店・ホテル、医療・社会福祉法人)
- 車両の清掃、運転業務(商品の運搬)
- 店舗清掃作業、ゴミの仕分け・分別
- 商品の包装、箱詰め作業
- 飲食店ホール係
- 一般事務
- 軽介護業務
- 幼児保育・学童指導員補助 など

資料)鹿児島市シルバー人材センター、図表6も同じ

図表6 登録会員の主な有資格者数

(単位:人)

宅地建物取引士	48	通関士	1
1級建築士	13	日商簿記2級	2
2級建築士	18	日商簿記3級	2
大型1種免許	132	小学教諭	56
大型2種免許	31	中学教諭	67
管理栄養士	1	高校教諭	48
栄養士	9	保育士	25
ホームヘルパー	153	マイクロソフトオフィススペシャリスト	1
社会福祉士	11	調理師	92
介護福祉士	30	看護師	24

時代の変化に対応

センターでは、両親が鹿児島市内に在住し、子どもが県外等の遠隔地に居住している場合に日常生活の支援をする「親孝行代行サービス」を15年10月に開始した。さらにこのサービスは、誕生日など記念日のお祝いを代わって届けたり、タブレット端末を使って孫とテレビ電話ができるようサポートしたりするなどといったメニューもそろえる。

また、共働き家庭が増え、産前産後の支援や育児の手伝い、両親が不在の際の子守り等、子育て世代の女性が安心して働ける生活支援サービスも行っている。このほか、県外など遠方に居住している方向けに、鹿児島市内の墓掃除や墓参りの代行等も行い、まさに「ゆりかごから墓場まで」さまざまなサービスをそろえている。

女性会員増強に注力

子育て支援や生活支援など女性の力を発揮できる場が増加していることから、センターでは女性会員の増強に力を入れている。

具体的な手法として、就業時以外に親睦を図れるよう、趣味の同好会や女性会員の「ひまわりの会」を組織し、会員の交流会やファッション・美容等の講座などを開催して仲間づくりや楽しみの場であることをアピールしている。また、15年度には正会員の入会報奨金制度を設け、会員数の拡大に力を入れる。

さらに、会員を増やすばかりでなく、会員のスキルアップや後継者育成を図るため、剪定作業や雑草の刈り払い、除草作業、筆耕（賞状書き）等の職種はセンター独自で研修会・講習会を開催している。



子育て支援（託児）の場でも活躍



女性会員の「ひまわりの会」での交流

全ての世代が活躍できるように

鹿児島市の人口は約60万4千人、このうち60歳以上の人口は約3分の1にあたる19万3千人にも上る。少子化が進み、今後生産年齢人口はますます減少する。

一方で平均寿命は80歳まで伸び、60歳といっても健康でまだまだ働ける方は多い。そして何より「経験」という大きな財産がある。「年齢はシルバーだけれど、心意気はゴールドで地域を支えていきたい」と藤山理事長は意気込む。

生産年齢人口の減少下においても活力ある社会を維持するために、元気な高齢者が地域を支え、すべての世代が活躍できる社会の仕組みが期待されており、今後ますますシルバー人材センターの活用が重要となる。

（森口 真也）